

冬季訓練を実施しています

東通原子力発電所では、東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえ実施してきた様々な安全対策のうち、屋外で実施する対策について、冬季特有の厳しい気象条件下においても、実効的に運用できることを確認するため、冬季訓練を実施しております。

今後も冬季や夜間・休日等、様々な状況を想定した訓練を繰り返し実施し、安全対策のさらなる充実につなげてまいります。

【主な訓練項目】

●消防車による注水訓練

消防車を用いて原子炉や使用済燃料プールに注水する訓練



防火水槽から取水し、原子炉等に注水

●水源確保訓練

原子炉や使用済燃料プールへの注水に必要な水源を長期的に確保するため、河川から取水する訓練



敷地内を流れる小老部川からの取水

●代替海水ポンプ設置訓練

海水ポンプが故障し、復旧困難な場合に、原子炉を冷却する「代替海水ポンプ」を設置する訓練



代替海水ポンプ(送水車)からホースを敷設

●アクセスルート確保訓練

電源車や消防車等のアクセスルートを確保するため、がれき等を撤去する訓練



ホイールローダでがれき等を撤去

～その他訓練項目～

「電源確保訓練」・・・大容量電源装置や電源車を接続し、受電する訓練
「燃料確保訓練」・・・大容量電源装置や電源車、消防車を連続稼働させるため、燃料を補給する訓練 など

東通原子力発電所における基準地震動Ssを見直すこととしました

当社は、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震および同年4月7日の宮城県沖の地震を含めた最新知見を考慮し、東通原子力発電所における基準地震動Ssの見直しの必要性について、社外専門家のご意見もいただきながら検討してまいりました。その結果、基準地震動Ssについて、現在の450ガルから600ガル規模へ見直すことといたしました。

新たな基準地震動Ssの詳細な評価については、引き続き検討を進めるとともに、今後の見直しを踏まえて、各施設の詳細評価を行いながら、耐震性向上を図るための工事にも取り組んでまいります。

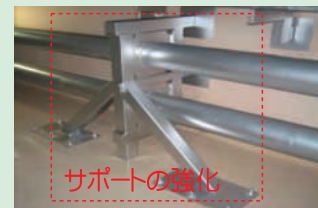
～地震対策(更なる安全性評価)～

(例)敷地内断層追加地質調査



敷地内断層は「将来活動する可能性のある断層等」ではないとの評価結果を原子力規制委員会に報告しており、基準地震動Ssの見直しにあたり、考慮する必要がないと判断しています。

(例)耐震性向上工事



新たな基準地震動Ss(600ガル規模)に対する詳細評価を実施し、耐震性向上の観点から工事が必要となる設備を検討しています。

基準地震動Ssとは?

原子力発電所の設計にあたって想定した敷地周辺での地震による最大の揺れの強さ。

一般的に地下の硬い岩盤上の最大加速度(単位はガル)で示される。

ガル(加速度)について

地震によって地盤が振動する速度の単位時間当たりの変化の割合。加速度は、センチメートル毎秒毎秒(cm/s²)で表わされるが、(ガル・ガリイにちなんで)通常「ガル」が用いられている。

東通原子力発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者会合が開催されました

平成26年2月24日、原子力規制委員会の「東通原子力発電所敷地内破碎帯の調査に関する有識者会合」の第7回評価会合が開催され、1月17日に報告した「東通原子力発電所敷地内破碎帯の活動性等の評価に係る追加地質調査結果」について説明いたしました。

評価会合では、膨大なデータをまとめた当社報告書について、時間の都合で当社からの説明内容が限定的になりましたが、次回の会合で有識者会合の方々の意見・疑問点に対して、しっかりと説明させていただきたいと考えております。

当社としては、評価書案の取りまとめにあたっては、十分な審議が必要であり、社外専門家の見解も説明させていただくなど、科学的な議論を深めていくことが重要と考えております。



有識者による現地調査の様子
(平成25年12月)